

# 4月は9%減の166万TEU

## ■アジア発米国向け、海事センター調査

日本海事センターが26日に発表した4月のアジア18カ国・地域発米国向け東航コンテナ荷動き量（速報値）は、前年同月比8.8%減の166万3833TEUとなった。8カ月連続でマイナスとなった。昨年は関税引き上げを懸念した荷主の前倒し出荷によって荷動きは好調に推移したが、今年は反動で減少が続いている。1～4月累計の荷動き量は前年同期比6.3%減の695万4305TEUとなった。

4月の積み地国・地域別コンテナ輸送量は表のとおり。日本海事センターがPIERSのデータをもとに毎月作成しているもので、速報値ベースでの発表のため後日修正が加わる場合がある。

4月の国・地域別の輸送量は中国出しが17.5%減の74万9721TEUとなり、12カ月連続の減少となった。一方で日本出しは9.1%増の6万2609TEUとなり、4カ月ぶりに増加した。アセアン出しは6.9%増の57万5782TEUだった。物量の多いベトナム出しは減少したが、タイ出しが23.3%増と好調に推移した。南アジア出しは21.1%減の11万4730TEUと引き続き大きく落ち込んだ。主力輸出国となるインド出しが22.9%減の8万6161TEUと振るわなかった。

品目別では、家具・寝具などが12.7%減の26万8655TEU、機械類が10.8%減の18万8070TEU、プラスチックおよびそ

の製品が0.9%減の16万1231TEU、繊維類およびその製品が15.3%減の13万1718TEU、電気機器・AV機器などが15.4%減の11万9608TEU、自動車部品などが8.7%減の8万6718TEUとなり、上位品目が軒並み減少した。

4月の米国内地域別荷動きの構成比は、西岸向けが56.3%（3月は47.8%）、東岸向けが32.1%（同38.5%）、ガルフ向けが7.6%（同8.5%）、その他が4.0%（同5.1%）となった。3月と比べて西岸向けのシ

2026年4月のアジア発米国向け国・地域別荷動き

	4月			1～4月累計	
	荷動き(TEU)	前年同月比(%)	シェア(%)	荷動き(TEU)	前年同期比(%)
18カ国・地域合計	1,663,833	▲8.8	100.0	6,954,305	▲6.3
日本	62,609	9.1	3.8	218,615	▲1.4
韓国	109,415	▲5.2	6.6	417,831	▲7.5
台湾	48,555	▲11.0	2.9	200,487	▲10.9
中国+香港	752,739	▲17.6	45.2	3,315,662	▲15.8
（中国）	749,721	▲17.5	45.1	3,301,175	▲15.7
（香港）	3,018	▲31.5	0.2	14,487	▲23.7
マカオ	3	▲93.6	0.0	10	▲90.7
アセアン計	575,782	6.9	34.6	2,309,191	14.3
（シンガポール）	12,398	2.0	0.7	45,068	▲6.8
（フィリピン）	13,079	9.0	0.8	45,960	▲1.9
（マレーシア）	43,698	▲1.3	2.6	179,350	7.0
（インドネシア）	60,295	6.0	3.6	229,196	10.4
（タイ）	138,643	23.3	8.3	484,428	22.2
（ベトナム）	269,251	▲2.1	16.2	1,176,527	11.8
（カンボジア）	37,545	48.5	2.3	144,933	50.9
（ミャンマー）	873	▲13.6	0.1	3,729	▲5.3
南アジア計	114,730	▲21.1	6.9	492,509	▲12.6
（スリランカ）	6,873	0.3	0.4	27,784	4.7
（バングラデシュ）	12,051	▲8.7	0.7	50,469	1.0
（パキスタン）	9,644	▲29.2	0.6	43,798	▲12.5
（インド）	86,161	▲22.9	5.2	370,458	▲15.3

エアが大きく上昇している。

日本海事センターがドゥルーリーのデータに基づいて発表したアジア発米国向けの4月のコンテナ運賃水準は、上海発ロサンゼルス向けが前年同月比7.5%増の3112ドル/FEU、上海発ニューヨーク向けが0.7%減の4002ドル/FEUとなった。横浜発ロサンゼルス向けは17.3%増の4360ドル/FEU、横浜発ニューヨーク向けは33.5%増の6224ドル/FEUとなった。いずれも3月と比べて運賃水準が上昇している。